

メインセンター教育用システム紹介

総合情報基盤センター 日永田泰啓・田中芳雄

1 はじめに

新システムが06年3月1日に運用開始となりました。この文書では、新システムのうち、総合情報基盤センターのメインセンター(本庄キャンパス)教育用システム、すなわち、メインセンター演習室の端末で動くシステムについて紹介します。

本庄キャンパスの佐賀大学附属図書館(以下では本庄図書館と呼ぶ)や就職課の端末は、メインセンター大演習室の端末とハードウェア上の仕様は同じです(少なくともしばらくは)。ですので、本庄図書館の端末、就職課の端末の利用者にも本紹介は参考になるでしょう。

本稿でいちばん伝えたいことは、(OS やソフトウェアの細かい version の違いを別にすると)基本的に旧システムと同様に使えるということです。

なお、メインセンター演習室の端末、本庄図書館の端末、就職課の端末のすべては、毎週水曜日の13:00 ~ 16:00の間、保守点検のため使えません。ご注意ください。

2 システムのソフトウェアとハードウェア

端末のソフトウェア・ハードウェアについて簡単に紹介します。まず、旧システムとの大きな違いについて説明し、次に、新システムの詳細を説明します。

2.1 旧システムとの大きな違い

- 旧システムと異なり、メール用に使えるハードディスク容量(メール・スプール用)と、作業用ハードディスク容量とに対し別々に容量制限をかけてます。
- 学生、教職員のハードディスク容量が増えてます。学生、教職員の一人あたりのハードディスク容量は、メール・スプール用 200 MB、作業用 200 MB です。ただし、POP でメールを受信している場合は、メール・スプールへの保存容量が 100 MB を越えるとメールの受信は不可能になります (POP プロトコルの仕様です)。
- 学生が送受信するメールの(1 通あたりの)サイズが、10 MB に増えました。
- メインセンター演習室の端末、本庄図書館の端末、就職課の端末は全て C ドライブ、Z ドライブ、W ドライブの3つのドライブを持っています。このうち、C ドライブの内容はログアウトすると消去されてしまう性質があります。Z ドライブ、W ドライブは、メインセンター演習室の端末、本庄図書館の端末、就職課の端末のどの端末からも保存用のドライブとして使えます。たとえば、メインセンター演習室の端末を使って作ったファイルを、ログアウトす

る前に Z ドライブに保存しておきますと、そのファイルを本庄図書館の端末にログインして使う事ができます。

- 新システムでは floppy ドライブ、MO ドライブが仕様から外れました。筐体にも floppy ドライブ、MO ドライブは内蔵されておりません。ご迷惑をおかけしますが、新システムで使用可能な媒体になるべく移行していただけますようお願い致します。

2.2 ソフトウェア

旧システムと同様に、OS は起動時に 2 つ (Windows か linux) を選択可能となっております。Windows、linux それぞれの詳細は次の通りです。

2.2.1 Windows 用ソフトウェアの詳細

新システムで使えるソフトウェアの種別とアプリケーション名を以下に列挙します。†印は、小演習室およびホールの端末でのみ利用可である事を示します。

OS: WindowsXP Professional

プログラミング統合環境: Visual Studio .NET Pro

JAVA プログラミング統合環境: NetBeans 4.1

数式処理言語: Maple10

電子メールソフトウェア: Winbiff、Thunderbird

WWW ブラウザ: Mozilla Firefox

ファイル転送ソフトウェア: WinSCP

文書処理統合環境 (ワードプロセッサ, 表計算, プレゼンテーション, データベース):
Office2003、StarSuite8

テキストエディタ: EmEditor v4 Professional、Meadow

画像編集・描画ソフトウェア: PaintShopPro 9

タイピング練習ソフトウェア: CIEC Typing Club 2005

ウィルス対策ソフトウェア: Symantec AntiVirus

ターミナルソフトウェア: TeraTermPro

日本語入力ソフトウェア: Microsoft-IME2002

中国語入力ソフトウェア (中国): Microsoft-Pinyin IME3.0

中国語入力ソフトウェア (台湾): Microsoft New Phonic IME2002a

韓国語入力ソフトウェア: Korean Input System(IME2002)

日本語コード変換ツール: QKC

日本語組版ソフト: pLaTeX

pLaTeX フロントエンド: WinShell

pLaTeX 出力ソフトウェア: dviout

PostScript 表示ソフトウェア: Ghostscript

Ghostscript フロントエンド: GSview

PDF 表示ソフトウェア: Adobe Reader 7

統計ソフトウェア: R

圧縮・解凍ソフトウェア (CAB/LHA/TAR/ZIP 形式): Lhaplus for Windows

グラフ作成ツール: gnuplot

化学構造描画ソフトウェア: ISIS/Draw

JAVA ランタイム環境: JAVA1.5

コンテンツ再生ソフトウェア: Quick Time Player、Real Player10、Windows Media Player10

† PDF 表示・作成・編集ソフトウェア: Adobe Acrobat 7 Elements

† 3次元分子軌道計算ソフトウェア: WinMOPAC 3.9

2.2.2 linux 用ソフトウェアの詳細

OS RedHat Enterprise Linux Desktop V.4

ウィンドウシステム X11R6

デスクトップ環境 GNOME

暗号化通信機能 SSH2 を使用可能

日本語メールクライアント Mew ver. 4、Thunderbird ver. 1.0、Sylpheed ver. 2.0

日本語文書作成機能

- 日本語かな漢字変換として、Canna ver. 3.7、FreeWnn ver. 1.10、Kinput2 v3.1
- 日本語エディタとして XEmacs ver. 21.4
- 日本語組版ソフトとして、日本語 pLaTeX
- LaTeX file から HTML への変換ソフトとして、latex2html
- 日本語 PostScript プレビューアとして、ggv ver. 2.8
- 日本語 PDF プレビューアとして、Adobe Reader ver. 7.0

- 作図ソフトウェアとして、Tgif ver. 4.1、GIMP ver. 2.0、ngraph ver. 6.03、gnuplot ver. 4、StarSuite の中にも図形描画ソフトが含まれています。
- 日本語対応統合オフィス環境として、StarSuite ver.8。本ソフトは本学がライセンスを保有しており、本学に籍がある方(退職者、卒業者はダメ)は、総合情報基盤センターのホームページからダウンロードし、使用できます。個人所有のパソコンへの install も可能です。
- HTML viewer(WEB browser) として、FireFox ver. 1.5
- 漢字コード変換ソフトとして Qkc ver. 1

プログラミング環境

- gcc-3.4 , gcc-c++-3.4 , gcc-g77-3.4 の 3 つの GNU compiler
- Java5 に対応した Java 開発環境として、NetBeans ver. 4.1
- GUI 付きデバッガとして、xxgdb ver. 1
- light weight language として、perl ver. 5.8、Ruby ver. 1.8.1

ファイル圧縮ツール LHA ver. 1.14i

2.3 ハードウェア

ハードウェア構成も旧システムと同様になってます(ディスクレス・マシン)。ただし、個々の構成ハードウェアのスペックはもちろん向上してます。

図 1 は、筐体を正面から写したものです。この筐体は小演習室とロビー設置端末と同型のもので、大・中演習室の端末もほとんど同じタイプのもので、

筐体の各部分の詳細は次を御覧下さい。

CPU: Intel 社製 Pentium4 3.0GHz

メモリ: 1GB ただし、diskless system としての運用ゆえ、1GB 全部は使えません。

内蔵 CD-ROM 装置: 大・中演習室では CD の読み込みが可能。小演習室とロビー設置端末では CD・DVD-ROM の読み込み及び CD-R/CD-RW の書き込みが可能。

ディスプレイ: 液晶カラーディスプレイ装置

マウス: ホイール付き光学マウス

USB: 筐体前面に USB2.0 対応のポート(表面、裏面に 2 つずつ)を有します。表面のポートは図 1 の C の部分です。

入出力ジャック: 筐体前面にヘッドフォン出力用ステレオミニジャック(図 1 の D の部分)、マイク入力用ステレオミニジャックをそれぞれ有します。

IEEE1394 ジャック: 筐体前面にあります。

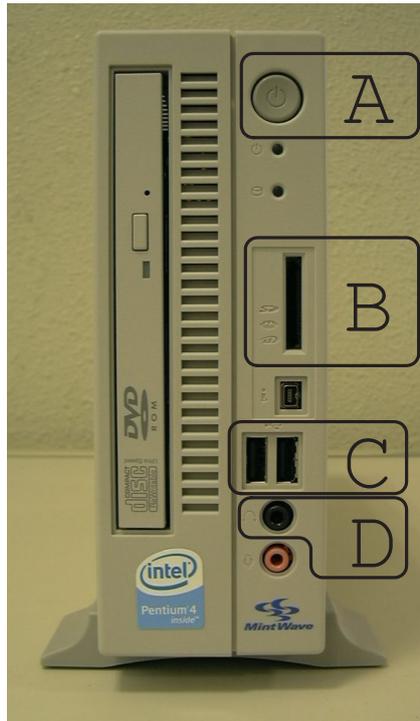


図 1: 筐体正面図

カード読み書き装置: 以下の各種タイプを接続するインターフェースを持っています。ただし、動作保証されているのは、Windows からの使用のみです。linux からの使用は動作保証されていません。また以下の の外付けカード等の読み書き装置は、少数のみ貸出可能です。以下で「筐体にスロット有り」と書いてあるのは、図 1 の B の部分の事です。

SD 筐体にスロット有り

mini SD USB で接続する カード読み書き装置 を貸出可能 ()

XD-picture 筐体にスロット有り

メモリースティック 筐体にスロット有り

メモリースティック pro USB で接続する カード読み書き装置 を貸出可能 ()

マジックゲート・メモリースティック USB で接続する カード読み書き装置 を貸出可能 ()

スマートメディア USB で接続する カード読み書き装置 を貸出可能 ()

コンパクト・フラッシュ(CF) USB で接続する カード読み書き装置 を貸出可能 ()

マイクロドライブ USB で接続する カード読み書き装置 を貸出可能 ()

MMC USB で接続する カード読み書き装置 を貸出可能 ()

RS-MMC USB で接続する カード読み書き装置 を貸出可能 ()

floppy USB で接続するフロッピーディスクドライブを貸出可能 ()

3 起動方法・終了方法

3.1 起動方法

起動方法は筐体の電源ボタン (図 1 の A 部分) を押すだけです。押して 1 分程度経つと

```
--> Windows  
    linux
```

のような OS の選択を催す表示が出て、選択待ちになります (選択された OS 名は白黒反転表示されます)。必要ならカーソル・キーを使って矢印 (-->) を選択したい OS の方に移動し、Enter キーを押します。その後、どちらの OS も ユーザ名、パスワードを入力する画面になります。それらを入力後、使用可能となります。

3.2 終了方法

終了方法は OS によって異なります。以下それぞれについて説明します。

3.2.1 Windows の終了方法

1. 「スタート」ボタンを押します。
2. 「シャットダウン」をクリックします。
3. パネルが出てきます。「実行する操作を選んで下さい (W)」の下は「シャットダウン」のまま、「OK」をクリックします。そうすると終了処理が始まります。

3.2.2 linux の終了方法

2 種類の終了方法があります。

- 画面上の最上端に “Logout” というボタンがあります。このボタンを押すだけで、確認無しで終了処理が始まります (これは本稿執筆時点での仕様で、後に変更となる可能性があります)。
- 画面上端の「アクション」メニューをクリックします。次に「ログアウト」をクリックします。パネルが出てくるので、「シャットダウン」を選択します。これで、パネルの下端あたりの “OK” ボタンを押しますと終了処理が始まります。